

「海外の PhD (博士) 課程を終えて」

NPO 法人「最先端のむし歯・歯周病予防を要求する会」

西 真紀子

年々、世界は狭くなり、歯科界のグローバル化も加速しています。そのような時代にあって、日本の PhD (博士) 教育の質はあまり評判が良くありません。スウェーデンのある先生は、日本の PhD は自分で研究せずに取得できるということを聞いたそうで、日本人の名刺に PhD と書かれてあっても全く信用していませんでした。たとえ、ごく一部だけがそうであっても、日本全体の PhD の価値が疑われることは残念です。

世界標準との乖離があるのは、ご存知のように卒前教育、歯科臨床でも指摘されています。歯科医師免許や PhD 学位といった看板に対する根本的な概念の違い、その取得プロセスを知る必要があるのではないのでしょうか。私は縁あってアイルランド・コーク大学で、修士と PhD の課程を経て、どういう審査で学位が与えられるのかを体験させてもらいました (PhD 論文はこちらからダウンロードしていただけます <https://cora.ucc.ie/handle/10468/7001>)。世界標準を視野に入れている皆様に、この体験談をお話しできる機会を嬉しく存じます。